

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

総合学科の特性を活かして地域のニーズやグローバル化する社会の要請に応える教育活動を展開し、地域や次代を支えリードする人材を育成する。

1. 多様な学びを通して能力・適性を伸ばし、自らの将来を展望し、目標達成に向かう自己実現力を育む。
2. 急速に変化する社会の中でも、広い視野を持ち、自らの社会での役割を見出し、活躍できる「自主、自律、創造」の力を育む。
3. 本校で身につけた知識や経験に自信と誇りを持ち、様々な困難に立ち向かっていくとともに、他者を理解し、協働できる寛容な心を育む。
4. 学校、地域における教育資源と社会資源を相互活用しながら交流を推進し、一層地域に信頼され愛される学校をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果をだす授業」をめざした取組みを進める。

- ア 総合学科の特性を活かした授業展開をもとに、従来の授業実践とICT機器を活用した授業を融合し、経験の少ない教員とベテラン教員との能力を組み合わせ、技術や知識の共有を図る。
- イ 授業を通して「自己実現力、協働力、深く考える力」を育むことをめざし、授業力向上のための、公開授業や校内研究協議を活性化する。
- ウ 自立支援コース生徒の進路実現に向け、校内サポートを充実させるとともに関係諸機関と連携し就労に向けた取組みを多面的に行う。
- エ 「総合的な学習」から「総合的な探究」に。「産業社会と人間」を土台とした3年間を見据えた「探求学習」の実施。

学校教育自己診断(生徒)における「わかりやすい授業」の肯定率を、R4年度には70%以上をめざす。(H29 58.0% H30 59.6% H31 65.1%)
R2年度には進路未定率1%以下を達成し、R4年度までに0%をめざす。(H29 1.5% H30 2.0% H31 1.0%)

2 キャリア教育、人権教育の推進

(1) キャリア教育、人権教育を系統的、積極的に推進し、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かし、協働し生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。

- ア 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、LHR等を活用して、3年間を見通したキャリア教育、人権教育を行う。
- イ キャリアパスポート運用を見据えた小中学校での学習や生活、人権教育やキャリア教育を把握し、小中学校と連携した取組みを推進する。
- ウ 生徒自らが、挨拶、礼儀、身だしなみ等、規範意識を高める態度を日々の教育活動の中ではなくむ。
- エ 生徒自らが、時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的な生活習慣を確立させる。

R4年度には18クラス規模で3800件未満をめざす。(H31年20クラス規模で約4,300件)

3 「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成

(1) 多様な学びを通して身に付けた能力を最大限に発揮し、自律的自発的に活動し、自らの才能を開花させる環境を整える。

- ア 学校行事や特別活動を通して得られる連帯感と、集団活動によって味わえる成就感・達成感を体験させる。
- イ 生徒同士がそれぞれの違いを理解し共に学び、意思疎通を図ることによって、将来において共生、協働できる姿勢をはぐくむ。
- ウ 国際理解教育を進めるため、海外の生徒と交流する機会を設ける。
- エ 生じた事案を教育相談係や年次連絡会で集約し、本人の希望を尊重しながら情報の共有化を図り学校全体で支えていく体制を充実させる。

(2) 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。

- ア 近隣の小中学校や施設との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。
- イ 学校ホームページを活用し、学校情報発信を積極的に行う。

学校教育自己診断(生徒)における「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率を、R4年度には73%以上をめざす。
(H29 61.6% H30 62.4% H31 67.8%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 2年 11月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果をだす授業」をめざした取組みを進める。</p> <p>ア 総合学科の特性を活かした授業展開をもとに、従来の授業実践と ICT 機器を活用した授業を融合し、経験の浅い教員とベテラン教員との能力を組み合わせ、技術や知識の共有を図る。</p> <p>イ 授業を通して「自己実現力、協働力、深く考える力」を育むことをめざし、授業力向上のための、公開授業や校内研究協議を活性化する。</p> <p>ウ 自立支援コース生徒の進路実現に向け、校内サポートを充実させるとともに関係諸機関と連携し就労に向けた取組みを多面的に行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業力向上チームを中心に、授業アンケート、学校教育自己診断の結果を踏まえ、教材の精選・授業展開の工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内授業公開週間を年に 2 回し、教科ごとの授業研究を奨励する。 ・近隣幼稚園、小・中学校、施設との交流を一層活発に行う。 ・ICT 機器を授業に一層活用できるように授業を工夫する。 <p>イ・進学希望生徒の増加を踏まえ、自習室の開室時間を生徒の希望に応じて柔軟に対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路 HR、進学説明会等を通じて、多様化する入試制度を生徒にも保護者にも情報提供する。 ・自分の能力に応じた級の漢字検定、英語検定を受けるよう、奨励する。 ・職員会議を月 1 回とし、各種研修を年度当初から行事計画に入れる。ICT 機器による連絡手段を活用し、日常の連絡、情報共有、周知を図る。また、行事前における生徒の最終下校時刻を設定し、生徒も教員も負担加重のないように工夫する。 <p>ウ・自立支援コース生徒の進路実現に向け、本人・保護者の意向を踏まえ、関係諸機関とも連携を強化する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・自己診断（生徒）の「わかりやすい授業」65.1%を 68%に。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断（教職員）の「学習指導の方法等について他教科の担当者と話し合う機会がある」60.7%を 65%に。 ・地元の小中学校と連携し、授業見学や合同研修会を実施。 ・座学の出前授業を複数回実施。 ・自己診断（教員）「ICT を活用した授業が多い」92.9%以上を維持する。 ・自己診断（生徒）の「教え方に工夫をしている先生が多い」73.8%を 75%以上に。 <p>イ・自習室利用生徒数を 200 人以上を維持。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断（保護者）「保護者の相談に適切に応じてくれる」85.1%を 88%に。 ・自己診断（保護者）「教育情報について提供の努力をしている」87%を 90%以上に ・就職一次合格率、85%に復活。（H30 一次合格率 74%） ・進路未定率を 2%未満に。（H31 1.0%） ・漢字検定受験者数 100 名以上受験。合格率 50%（H31 53 名受験合格率 32%） ・英語検定受験者数 150 名以上受験。合格率 60%（H31 122 名受験 合格率 54%） ・自己診断（教職員）「各種会議が有効に機能している」64.3%を 68%以上に。 ・自己診断（教職員）「校内研修は教育実践に役立つ」78.6%を 80%以上に。 <p>ウ・自立支援コース生の希望進路の実現 100%</p>	

<p>2 キャリア教育、人権教育の推進</p>	<p>(1) キャリア教育、人権教育を系統的、積極的に推進し、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かして生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。 ア 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、LHR 等を活用して、3 年間を見通したキャリア教育、人権教育を行う。 イ 生徒の学習歴の多様化を踏まえ、小中学校でのキャリア教育、人権教育の状況を把握し、小中学校と連携した取組みを一層推進する。 ウ 挨拶、礼儀、身だしなみ等、公共の場での自ら規範意識を高める態度を日々の教育活動の中ではぐくむ。 エ 時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的な生活習慣を確立させる。</p>	<p>(1) ア・ルーブリック評価を用い、生徒に課題達成目標を明確に示し、プレゼン講座を充実させる。 ・初任者にはHRや「産社」「総合探究」の時間に担任と一緒に入り、指導内容を把握する。 イ・小中学校と連携し、生徒・教職員の交流を積極的にすすめる。 ・課題を抱えた生徒の情報共有を迅速にする。 ・教育相談室開室の周知と利用の促進をする。 ウ・年次団会議等で生徒の情報交換を密にし、常に情報共有に努める。 ・「身だしなみキャンペーン」の時期だけでなく、常に恥ずかしくない身だしなみを心がけるよう指導する。指導内容を学校全体で統一し、一貫した粘り強い指導をめざす。 エ・生徒指導部中心に遅刻件数を減らす。 ・件数の多い生徒には生活習慣全般の見直しを保護者の協力のもとに指導する。 ・遅刻指導の工夫を生活指導部中心に、他の分掌とともに協力して取り組む。</p>	<p>(1) ア・自己診断(生徒)「自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」76.7%を80%以上に。 ・自己診断(生徒)「進路についての情報をよく知らせてくれる」84%以上を維持。 イ・自己診断(生徒)「地域の人々や近隣の学校との交流がある」60%以上に ・自己診断(生徒)「保健室や相談室などで気軽に相談できる先生がいる」52.5%を55%以上に ・職員人権研修年5回を堅持。内容も精選。 ・教育相談研修を1回実施。 ウ・自己診断(生徒)「先生の指導に納得できる」63.6%を65%に。 エ・遅刻件数を19クラス規模で4050件未満にする。(H31年度 4278件)</p>
<p>3 「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成</p>	<p>(1) 多様な学びを通して身に付けた能力を最大限に発揮し、自律的自発的に活動し、自らの才能を開花させる環境を整える。 ア 学校行事や部活動を通して得られる連帯感と、集団活動によって味わえる成就感・達成感を体験させる。 イ 生徒同士がそれぞれの違いを理解しようと努め、意思疎通を図ることによって互いを尊重し、協働できる姿勢をはぐくむ。 ウ 国際理解教育を進めるため、海外の生徒と交流する機会を設ける。 エ 生じた事案を教育相談係や年次連絡会で集約し、本人の希望を尊重しながら情報の共有化を図り学校全体で支えていく体制を充実させる。 (2) 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。 ア 近隣の小中学校や施設との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。 イ 学校ホームページや校長ブログを活用し、学校情報発信を積極的に行う。</p>	<p>(1) ア・行事を通して多くの感動を体験させ、自己肯定感を高める取組みを推進する。 イ・体育祭、文化祭等の行事に工夫を凝らし、他者を思いやり、より良い取組みをめざすクラス仲間づくりを進める。 ウ・授業において、探究活動や発表活動を積極的に行い、自主的活動を促進し、互いに発表しあうことでコミュニケーション能力を高める。 エ 海外の生徒の授業参加や生徒との交流をする行事を行う。 オ・生じた事案を教育相談係や年次連絡会で集約し、本人の希望を尊重しながら情報の共有化を図り、教員同士もお互いを支えあうような環境をつくる。 (2) ア・地域の人を招いた農産物販売や学習成果発表会、クラブ活動紹介など、学校の取組みを外部の人に発表する機会を推進する。 ・生徒の主体的な意見を取り入れて、部活動のより一層の活性化に取り組む。 イ・Webページで、“生徒の活動の見える化”に取り組む。 ・生徒がかかわることにより、広報活動の活性化を図る</p>	<p>(1) ア・行事満足度95%以上を堅持。(H30 95%~98% H31 98.6%) イ・自己診断(生徒)「行事が工夫されている」80.8%を83%に。 ウ・総合学科アンケート「コミュニケーション能力が身に付いた」85%を堅持。 エ・海外の生徒の学校訪問を受け入れ、生徒との交流行事を複数回行う。 オ・学校教育自己診断(生徒)における「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率を、67.8%(H31)以上をめざす。 (2) ア・中高の部活動交流の実施クラブ数(7部)以上。 ・自己診断(生徒)「生徒は部活動に積極的に取り組んでいる」50.3%を55%に。 イ・“写真でみる貝塚高校”は月2回以上、様々な教員からの辞職発信。 ・生徒が作成した広報活動の成果物。オープンスクールでの生徒の参加。</p>